

## 11月5日(日) 第二礼拝「先にもてなす祈り」 マタイ7章7-12節

祈り(ヘブル語アタル:切に求める、ギリシャ語デーシス:願い)とは願いを切に求めることです。本文7節「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」祈る時神様が良い物を与えてくださいます。

第一番目、先にもてなす祈りをする事です。12節「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。」これが祈りの結論です。自分の願いより先に神様の願いを祈り求めること、自分中心の視点から神中心の視点になることが大切です。マタイ6:33「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」妻の願いを夫が、夫の願いを妻が、両親の願いを子供が願う。すると、家庭が健康になり、教会も強くなります。そして多くの実を結んで、社会も健康になります。現在多くの家庭が崩壊し、傷を受けた子供達は居場所を失っています。利己主義、自分が良ければそれでいい、これが終わりの時代の特徴です。しかし、マラキ4:6「父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。」相手を思いやることが回復への近道です。

第二番目、傷ついた者達を癒す事です。マタイ10:42「わたしの弟子だというので、この小さい者たちのひとりに水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません。」牧会38年目にヨンゼロ教会で説教奉仕をするために夜通し祈りました。その時主は「立ちなさい。歩きなさい。」と言われ、私は釜山、ソウル、平壤、中国、スタン系の国々、中東、そしてイスラエルまで行きました。これが全ての異邦人教会を通して成されることを、主は願っておられます。また、その途上で出会った人々を助けることで、神様は祝福を報いとして与えてくださいます。箴言19:17「寄るべのない者に施しをするのは主に貸すことだ。主がその善行に報いてくださる。」

第三番目、私達がイスラエルを祝福する事です。救い主を送るために選ばれたのがイスラエルの民であり、イエス様が再び来られるのもイスラエルです。ですから、サタンはこのイスラエルを憎み攻撃します。今回のパレスチナの攻撃で、世界の反応はイスラエルへの批判に転じました。今私達はイスラエルと共に立ち、祈る必要があります。詩篇122:6「エルサレムの平和のために祈れ。おまえを愛する人々が栄えるように。」また、イスラエルと教会は密接な関係があります。ローマ11:25、26「イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。」スイスのバーゼルで1897年ユダヤ人が祖国帰還を決議したその4年後ケンサスで聖霊運動が起こりました。1904年ウェールズリバイバル、1906年アズサリバイバル、1907年平壤大リバイバル、1930年代キャサリンクールマンの癒し、1948年イスラエルの建国と同時にピルグリウム大会、全世界的な収穫がありました。1967年エルサレムの回復時、多くの教会が大きくリバイバルしました。また、将来イスラエルが14万4千人になった時に、全世界に聖霊の油注ぎが強くなり、10億人が救われることを信じます。アーメン！